

咲かぞう いのち



お盆と供養

2年後の夏、7月24日に東京オリンピック、その1ヶ月後の8月25日には東京パラリンピックが開幕します。日本で夏季オリンピック・パラリンピックが開催されるのは、実に56年ぶりです。選手のみなさんには、最高のパフォーマンスを発揮できるよう最善を尽くしてもらいたいです。

さて、オリンピックは「平和の祭典」ともいわれ、スポーツを通して、平和な世界の実現に寄与することを目的にしています。この精神は東京オリンピック・パラリンピックのエンブレムにも反映されています。東京大会のエンブレムは日本の伝統的な市松模様を組み合わせたものになっており、形の異なる3種類の四角形が使われています。これは国や思想、文化の違いを表しており、これらの多様性を認め合い、つながる世界を目指す場であることを表現しています。

インターネットが世界中を網羅したことで、世界との距離はずつと縮まりました。その反面、自分にとって身近な人とのつながりが希薄になっていとも言われています。加えて、いじめや〇〇ハラスメントなど、相手の身になって考えれば、してはならないことだとすぐ分かるようなことが頻発しています。このような状況で、遠

くの人とだけ上手くやっていくことができるでしょうか。まずは自分の周りにいる人と違いを認め合い、尊重していくことが第一です。

法華経に薬草喻品という章があります。ここでは大きさの異なる植物（生きとし生きる全て）に雨（法華経の功德）が降り注ぎ、その雨を吸収して、それぞれが成長する様子が紹介されています。私たち人間も、誰一人として同じ人間は存在しません。生まれた国や思想、文化、親、経験など違いを説明

しようとすれば枚挙に暇がありません。けれど、その根っこには同じ「いのち」が備わっています。自分の「いのち」は大事で、あの人の「いのち」はそうではない、なんてことはあるはずがありません。「いのち」は全て等しく尊いものなのです。このことを見落としてしまったために、違いにばかり気をとられ、認め合うことを難しくしているのです。

私たちの唱える本門八品上行所伝のお題目は、自らの「いのち」の輝きを増し、他者の「いのち」の輝きに気づき、大切にすることを育むものです。2年後の夏、世界中の人たちを「お・も・て・な・し」する為にも、この夏から自分自身、そして他者の「いのち」を大切にすることを育むことを宿題にしてみてもいいでしょうか。

